



# ガリ版報告書

第6号 平成28年1月

広島県議会議員 自由民主党

み よし りょう じ  
**三好 良治**  
 みんなのすきな よい せいじ！

## 2期目を迎えていただき、文教委員長に就任しました

旧年中は大変お世話になりました。皆様のご支援のおかげを持ちまして、2期目を迎えることができました。改めまして心より御礼申し上げます。選挙後の臨時議会において、文教委員会の委員長に就任させていただき、使命感を一層強く持ちながら、元気に議会活動をさせていただいております。文教委員会は主に、県教育委員会を中心に「広島県の教育・人づくり」にかかる施策を担当します。

私自身、この分野につきましては、それなりの「信念」と「こだわり」を持って、これまでも活動をしてきましたつもりです。諸先輩方のご指導を仰ぎながら、また皆様方より聞かせていただく述べて大切にしながら、ぶれることなく、しっかりと舵取りをしていきたいと決意も新たにいたしております。

地方創生に向けたビジョンづくり、産業の活性化、包括医療介護体制の構築、インフラ整備の加速など、引き続きやらなければならない課題は山積していますが、いずれの分野におきましても、選挙時に皆様にお約束させていただいたことを実現すべく、誠心誠意努力を重ねてまいる所存ですので、何卒、引き続きのご指導の程、宜しくお願ひいたします。



### プロフィール

昭和47年生まれ 43歳  
 出身 福山市駅家町中島  
 現住所 福山市南松永町  
 平成 9年 愛媛大学法文学部 法学科卒業  
 平成 9年 元内閣総理大臣 宮沢喜一秘書  
 平成 12年 衆議院議員 宮沢洋一秘書  
 平成 23年 広島県議会議員初当選  
 平成 27年 2期目当選  
 三好良治社会保険労務士事務所 所長

文教委員会 委員長  
 広域観光対策特別委員会委員  
 議会運営委員会委員  
 決算特別委員会委員  
 自民議連文教部会長  
 自民議連社会資本整備研究調査会事務局長  
 前 総務委員会副委員長  
 前 産業競争力強化特別委員会副委員長  
 自民党広島県連青年局次長

### ①教育委員会制度の改革

戦後一貫して続いてきた教育委員会制度が、昨年4月より新制度に移行しました。教育委員長というポストを廃し、これまで事務を取り切ってきた教育長に権限が一本化され、併せて首長の任命権がより強化されました。責任体制がより明確になった一方、教育の中立性をどのように担保していくのか、課題もあります。新制度の運用をしっかりとチェックして行きたいと思います。

### ②主権者教育の導入

昨年6月に、選挙権年齢が20歳以上から18歳以上へと引き下げられたことを受け、学校で主権者について学ぶ、主権者教育が導入されることとなりました。選挙に関する子供達の素朴な疑問に、教員が政治的中立性を確保しながら、どのように、また何を教えていくべきか、早急な対応が求められます。「教えることから逃げる」のではなく、「教えることができるチャンス」と捉え、「広島県ならではの主権者教育」を実現すべく、委員会においても積極的な審議を行っています。

### ③学校耐震化計画の見直し

広島県の学校耐震化率は86%と、全国98%を12%も下回っています。地震災害に対する意識が低かった故の「遅すぎる対応」と言わざるを得ません。一方、今後地域によっては、学校の統廃合に向けた検討が避けられないといった状況にある市町も多く、計画倒れにならない実効性のある事業推進が必要です。福山市も含め、県内23市町全てとの間で改めて現状と課題を協議し、平成32年度末までに県内公立学校の耐震化率を100%に持つて行けるよう、再度、実施計画を作成しました。

### ④学校統廃合基準の提示

昨年8月に国から「公立小中学校適正規模・適正配置に関する手引き」が提示されました。大まかには、1学年1学級が編制できない状態(複式学級)にある学校については、統廃合に向けた検討対象校とするといった内容です。福山市においても6小学校(東村、山野、広瀬、服部、内海、内浦)、3中学校(山野、広瀬、内海)の計9校が再編協議の対象とされることになりました。特に過疎地域においては、学校の存在は大きく、コミュニティの中心であるばかりでなく、住民にとって精神的な拠り所でもあります。

一方、子供達の学習環境といった面から考えると、勉強や学校行事、またクラブ活動等の中で、切磋琢磨できる環境が本当に与えられるかと考えると、現実は厳しいものがあります。統廃合の決定は最終的には各市町に委ねられますが、県としても、分校制、一貫校制、教育特区、コミュニティースクールの指定、学校への多機能集約、休校制度など、統廃合の有無だけにとらわれないモデルを検討し、国との協議も行ないながら、各市町と連携を取って行けるよう積極的に取り組んでいきます。

### 文教委員会で一層議論を深めていきます

- 基礎学力の向上
- 校内暴力や、いじめ、教員の不祥事への対応
- 小中・高一貫校、義務教育学校の整備
- オリンピックを見据えたアスリート育成
- グローバル化への対応、海外姉妹校の増設
- 学校のIT化
- 中途退学者への対応
- 食育
- 放課後児童対策
- ふるさと学習
- 特別支援教育の充実
- 多様化する保育ニーズ
- 新たな大学教育プログラム
- 子育てサポートステーション
- 児童虐待への対応
- 道徳教育の充実 等……

### 羽原川防潮水門・排水機場の運行開始

松永湾に流れ出る2級河川「羽原川」の防潮水門と排水機場が完成しました。10年前の台風高潮による甚大な浸水被害を受け、平成19年に着手された県事業です。この整備にあたっては、前任者の中津信義先生が当初より心血を注がれ、ずいぶん苦労されました。

先生の偉大なご功績に改めて感謝と敬意を表しますとともに、私自身、先生の志をしっかりと受け継ぎ、地元福山の「安心・安全」に少しでも貢献できるよう、引き続き、インフラ整備を始めとする地域課題に、誠心誠意取り組んでまいります。



三好良治後援会 会長

クニヒロ(株)  
代表取締役社長

川崎 育造

皆様のご支援ご協力に、  
心より感謝申し上げます。

皆様方のあたたかく力強いご支援により、三好良治君は好成績で2期目の当選を果たすことができました。

心より厚く御礼申し上げます。また、2期にして、文教委員長という重責を担わせていただくことが出来ましたのも、ひとえに議会の先輩方はじめ、多くの支援者の皆様のお力添えの賜物と、重ねて感謝申し上げる次第です。

「教育・ひとづくり」は、国づくりの基本であり、地域にとりましても大変重要な課題であると考えます。

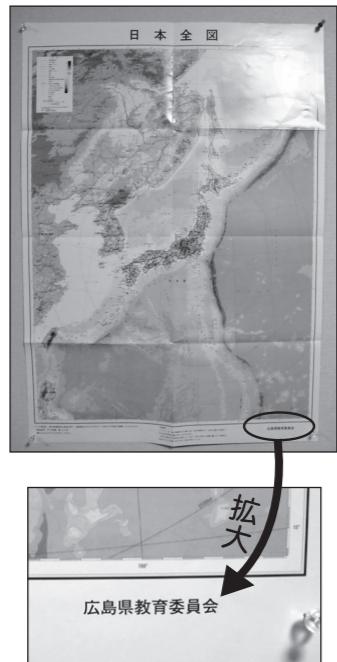
三好君には、これまで通り、「皆さんの声を、ねじ曲げることなく県政に伝える」という強い気持ちを大切にしながら、自らの信念に基づき、全力で文教委員長の任に当たってもらいたいと願っています。

しかしながら、彼はまだ駆け出しの2回生議員です。私ども後援会といたしましても引き続き精一杯支えてまいりますので、何卒、皆様方の変わらぬご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

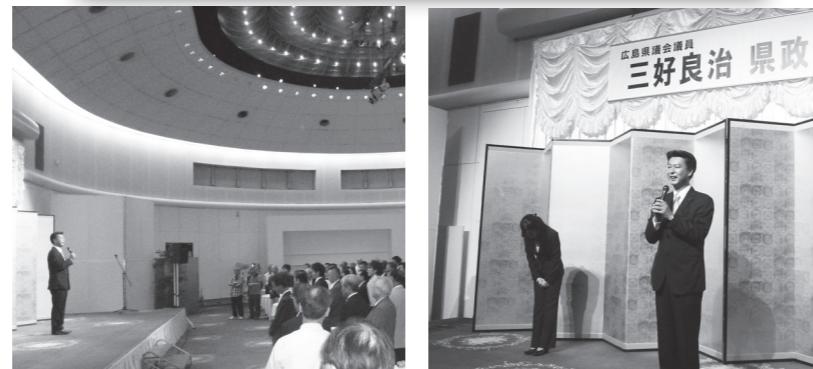
## 正しい日本地図を 全ての県立高校へ配布します

私達が、そして子供達が、日本に生まれ育ったことに誇りを持つためにも、正しい領土認識が必要です。私は、かねてより、「正しく美しい日本地図」を学校の教室に貼るべきだと訴えてきました。多くの後押しもいただく中で、この度から、広島県教育委員会の名称の記載された政府見解通りの地図を県内全ての県立高校に配布することができるようになりました。

北方四島、竹島、尖閣諸島全てが、きちんと日本国領土として国境線内に記してある地図です。



## 県政報告会（文教委員長就任のご報告）を開催させていただきました。



昨年9月13日(日)アルセにおいて、福山地区全域の方々を対象に、県政報告会（文教委員長就任のご報告）を開催させていただきました。当日は500人を越える多くの皆様にお越しいただき、ご激励をいただきました。心より感謝申し上げます。一層身を引き締めて努力を重ねてまいりたいと思います。

激励に来ていただきました、小林史明代議士、平田修己県議会議長、下崎邦明教育長、宮沢洋一先生・溝手顕正先生の秘書の方々、県議の高山博州先生、市議の稻葉誠一郎先生、瀬良和彦先生、岡崎正淳先生、本当にありがとうございました。

## 目玉 新たな教育改革～「学びの変革」とGL校設置に向けた検討～

### ◆背景

急速なグローバル化、IT化のなか、日本の教育は今、大きな変革を求められています。例えば現在、AI（人口知能）の研究が激的に進み、あと数年もすればコンピューターは偏差値60台の知能を獲得し、自ら考え、自ら仕事をこなすようになるとも言われています。あと10~20年後には、「ホワイトカラーの約5割がAIに仕事を奪われるだろう」とも言われています。現在の日本において「秀才」と称される「偏差値の高い人材」も、このままの教育を続けていくとすれば、近い将来、世界の中では「落ちこぼれ」となり、結果として、「日本は沈没する」ということになります。

これまでの「偏差値偏向型」「知識詰め込み型」の教育からの脱却が強く求められています。

### ◆「アクティブラーニング」と、「コンピテンシー教育」

そのためには、様々な手法が考えられます。そのうちの一つとして、自ら課題を発見し、それを解決していく能力を養う、「課題発見型学習」が有効だとされています。今後の教育では、教員が一方的に講義形式で教える授業から、「アクティブラーニング」と呼ばれる、授業を受ける児童・学生が、主体的に学ぶ授業形式が、より重視されることとなります。

また同時に、これまでの「内容重視型」から、今後は「資質能力重視型」の教育プログラムへのアプローチが不可欠とされており、こうした新たな教育は、「コンピテンシー教育」と呼ばれます。一言で言えば、「たくましく生き抜く力」と言えるかもしれません。「何を知っているか」から「何が出来るか」を、「結果だけ」ではなく「過程も」を、「ペーパーテストで測れるものだけ」から「ペーパーテストで測れないものも」を、重視した新しい教育プログラムの実践に挑戦していかなければなりません。我が県においても、こうした新たな教育の導入に向け、積極的な環境整備を進めてまいります。

### ◆GL校導入の検討

県の策定したアクションプランの中には、これら新たな教育内容を実践すると同時に、その先導的な役割を果たすモデル校として、GL校（グローバル・リーダー校）の設置を検討することが盛り込まれています。GL校構想とは、中高一貫型の全寮制小規模校を新たに設置し、全国から「能力」と「やる気」のある生徒を募集し、併せて高校からは ASEAN諸国を中心に、海外からの優秀な留学生を同数受け入れるというもので、国際基準の教育プログラムである国際バカロレア（IB）を導入するため、授業は当然、英語で行なうこととなります。

この構想に関する審議は、まさに、私が委員長を努める文教委員会の主管事項となります。「もう一度、教育県広島を取り戻したい」という思いは、私だけでなく、皆様も一緒だろうと思います。こうした思いのもとに、このGL校が「我が県の教育全体に、どんなインパクトを与えることができるのか」、それによって、「国公立・私立を問わず、県内全ての教育機関にどれほどのメリットを与えることができるのか」といったことを、しっかりと判断基準を持ち、導入の是非について審議を深めて行きたいと考えています。

## 私のこだわり～「道徳教育」と「ふるさとに誇りの持てる教育」～

### ◆命のリレー

少子高齢化の中にあって、結婚をし、子どもを生み育て、世代を受け継いで行くことを「尊い」と思える心を、教育の中で子供達に涵養して行く必要があると強く感じています。また、「いじめ」が原因で問題を抱える子供の多くは、「自分の存在を消したい」とか、「どうせ自分なんか消えてなくなればいい」と言う様に、自己肯定感が著しく低下していると言われます。「いじめ」を起こさない、許さない、これは大前提でありますし、現在広島県教育委員会では、「豊かな心育成課」という特別な課を設けて対応にもあたっています。しかし、現実には学校以外の日常生活においても「いじめ」は起こる可能性があり、100%の対応には限界があると言わざるを得ません。

そう考えるとき、私は、この「命のリレー」を、もっと学校で扱って欲しいと思っています。人が生まれてくるためには必ず両親が必要です。その両親にも必ず両親がいます。自分のひーひーじーちゃん、ひーひーぱーちゃんの代まで遡るだけで、実にそこには、30人、学校の1クラス分の祖先がいるのです。この当たり前のことを、今一度、子供達の心で感じてもらいたいと思っています。「一人じゃない」、「多くの祖先から受け継いだ血のなかに、まだ自分の知らない自分の能力が隠されているかもしれない」。そう思ったとき、人は少しだけでも強くなれるかもしれないと思うからです。早速、担当課と協議をし、道徳の「命のリレー」という単元のなかで、飽くまで強制ではなく、自由研究というかたちとなりますが、「自らの祖先を調べてみる」ということを扱うことができないか検討を進めています。

学校で、家庭・家系を扱うことになりますので、特に注意を払う必要がありますが、少しでも実現していきたいと思っています。

### ◆ふるさと学習

「このまちには何もない」。そんな声を時々お聞きします。確かに商業施設や産業拠点、インフラ整備やブランド、まだまだ私自身を含め、政治が頑張らなければならない点は沢山あります。一方で、「もの」だけでなく「精神」といった面から考えると、私たちのまちには、脈々と続いてきた歴史があり、多くの偉人がいて、二つの国宝を始め日本を代表するような文化財や文化の発祥地もあります。これから、私たちや私たちの子供達は、グローバル化の荒波の中で生きていかなければなりません。その際、自らが生まれ育った地に「誇り」が持てないようでは、眞のグローバル人材にはなり得ないと考えます。

そのためにも、各学校において、子供達が自らの「ふるさと」について、考え、学ぶ、「ふるさと学習」を強力に推進していく必要があると強く感じています。それが引いては、「思いやりのある地域社会」、「寄り添いあう家族」といった郷土愛、家族愛に繋がっていくものと確信しています。

## いつも お支えいただき ありがとうございます！



### 事務所移転のお知らせ

この度、後援会事務所を移転しました。お近くにお越しの際は、是非お立ち寄り下さい。

住所：福山市柳津町4-9-58松永木工団地協同組合内  
電話：084-933-0580  
FAX：084-933-4075  
メール：miyoshi-info@fujimori-pro.gr.jp